

平成20 年度九州沖縄地区合同シンポジウム

(日本海洋学会西南支部・海洋気象学会合同シンポジウム)/(水産海洋学会地区研究集会)/(共催・長崎大学)

- ◇ テーマ：「漂流・漂着ゴミの科学 ―東シナ海・海ゴミプロジェクトの成果と展開」
- ◇ 日 時：平成20 年12 月11日(木：西日本海洋調査連絡会議の翌日)
- ◇ 場 所：長崎大学
- ◇ コンビナー： 磯辺篤彦(愛媛大学)・清野聡子(東京大学)・日向博文(国総研)・馬込伸哉(産総研)
- ◇ 講演時間：講演30 分(口頭発表8件+ポスター発表5件程度の見込み)
 - 今回は一般講演の募集は行いません。
- ◇ 参加登録料：無料
- ◇会場やプログラム等の詳細は、決定次第、
海洋学会西南支部・ホームページ(http://www.riam.kyushu-u.ac.jp/~oed_www/swb/swb.html)
東シナ海・海ゴミプロジェクト・ホームページ(<http://www.umigomi.com>)
で告知します。

<趣 旨>

近年、東シナ海に面した五島や対馬などの島嶼部や九州沿岸には、漁具やプラスチック製品、はては医療廃棄物に至るまで様々なゴミが大量に漂着し、各地方自治体はその対応に苦慮している。特に、過疎化が進む沿岸部や島嶼の被害が大きく、これらの地域では、大量の漂着ゴミを拾い集める十分な人口がないため、処理が自治体財政に過度な負担を強いている。その対策に、ようやく国家レベルで制度が整備されつつあるが、科学技術面からの貢献は、著しく立ち遅れているのが現状である。しかし、東シナ海沿岸の漂着ゴミについては、これまでも、専門家や NGO によって海岸踏査による地道な調査が続けられてきた。さらに、最近の海洋観測技術の高度化、シミュレーション技術の向上、計算機環境や既存データセットの整備によって、漂流ゴミの経路や起源の推定が可能なるほどに、現代海洋学は力量をあげている。このような現況を踏まえ、科学的視点に立った漂流・漂着ゴミの実態解明や、環境負荷軽減に資する施策の検討を行うべく本研究集会を企画した。主として、現在、環境省/地球環境研究総合推進費の助成(D-071)を受け進行中の、東シナ海・海ゴミプロジェクトの成果と、今後の展開について紹介する。

◇問い合わせ先：〒790-8577 松山市文京町2-5 愛媛大学 沿岸環境科学研究センター
磯辺篤彦

TEL：089-927-9674

FAX：089-927-8182

e-mail：aisobe@at'sci.ehime-u.ac.jp ⇒'at'を@に変換してください。